

全國勞働内部に於ける産業別組合組織實現 の方針確立に關する件

全國勞働本部提出

主 文

本大會は日本に於ける勞働組合の組織の基本を産業別に整理し、之を全國的單一産業別組合として發展せしめることを目標とし、この目標の下に、本同盟所屬組合を整理統一することを期す。

理 由

一、産業別整理の問題は今更論議する必要のないことであつて、要は如何に之を具體的に實現せしむべきかにある。本同盟は、創立大會の方針書中に於てこれを歴史的使命なりとして取り上げ、既に明確なる断案を示してゐる。然しながらこの使命は各々の組合の成立の事情、傳統、習慣、勞資對立上の力の問題、勞資對立の一時的安全の及ぼす影響、大正十四年以降の分裂傾向の影響、闘争上に於ける全國同盟體との關係、財政的事情等々の難關によりて、實現は困難の情態にあつた。

二、本同盟としては、紡織勞働、鑛山勞働の二組合が代表的のそれであるが、現下の資本の攻勢は容易に其の發展をなましめず、二組合の完成さへ困難な實情に當面してゐる。

他方地方的整理の現勢は、東京地方に於ける地域的産業別組合整理は或る程度まで成功的發展を示し得た。又大阪金屬の巨大なる發展は既に金屬産業を單一化する條件を充て餘りあると言へる。

三、本同盟としての産業別整理に關連する組織状態としては、大體に次の如く規定し得るであらう。

(一)地方的には

東京地方、神奈川地方、栃木地方、京都地方、大阪地方、兵庫地方、中國地方、四國地方、九州地方、北海道地方
以上の地方は本同盟の勢力が他團體と比して優勢の地位にある。

(二)産業別的には

紡織産業、鑛山産業、普通金屬産業、運輸産業、化學並に一般産業
以上は他團體に比して壓倒的勢力を示してゐる。

この同盟のもつ地方的並に産業的勢力の分布状態を我國の全勞働者組織状態と結び付けて見れば、既に報告書中にも明かなるが如く我が同盟は地方的勢力と産業別組合勢力上、日本に於ける闘争上指導上、他團體に比し當然に此の難關多き産業別組合完成へのより多き使命を擔ふに足る團體たることは自他共に認容せらるべきである。

四、之を概略的に評述すれば、金屬關係に於ては日本勞働組合總聯合との協力により壓倒的實力を現出し得べく、陸上交通運輸は本同盟の決意と働きかけによつて巨大なる組合を形成することは至難でない。又都市従業員組合の完成も大阪に於ける本同盟の努力に於て、特に全國的に完成すべき實狀に於かれてゐる。

他方海上運輸は既に海員組合の完成によりて一點の困難もない。残る點は、海軍聯盟と造船聯盟との結合とこれとの全體的結合點に極めて至難な障礙が横つてゐる。又日本勞働總同盟の擴張主義——極右傾的形態としての——を打開せざる限り、化學一般産業の大組合結成は至難である。金屬と紡織に於ても同一の難關が總同盟の存在に於て痛感し得るものである。

五、けれども日本資本主義が曝露する矛盾と勞資對立の激成の一般的情勢は、これらの困難を打開すべき必然性を明示してゐるのである。第一は日本海員組合は既に完成され、現下の勞資の對立は一度關係資本の行詰りの當來せんか實に巨大な對立を現出する。海員組合が國際運輸に急速に加盟せる所以は、單に右翼的性質なる傾向のみと見るは主觀的であつて、對立上の客觀性に於て、充分なる陸上の協力が期待し得ざる現下の狀勢上に於ては、必然的にその方針を取らざるを得まい。此處に國內に於ける勞働組合戰線統一問